

平成20年度 朝日自然塾

新緑の白布平ブナ林で森と遊ぼう

朝日自然塾運営協議会

本年度第一回朝日自然塾が五月二四日（土）、小国町白布平で開催されました。



朝日自然塾は、朝日山地森林生態系保護地域に関わる自然保護団体をはじめとする関係十二の団体や機関でつくる協議会が企画運営するもので、今回は、「小国の自然を守る会」「山形県猟友会小国支部」のメンバーを講師として行われ、参加者



の募集にあたっては地域の子育て支援ボランティアグループ「プトライアングル」とタイアップして、地元の小学生親子一七人の参加を得て実施されました。



今回のプログラムは、吊り橋体験、動物たちの目覚め（足跡や糞で動物を見分ける）、森のふしぎ（木の葉や実で万華鏡を楽しむ）



む）、ムササビの巣穴観察、マタギの話、山のルールとマナーと盛りだくさんのメニューで新緑の白布平ブナ林の散策を行いました。吊り



橋体験ではほとんどが初めてということ、最初はおっかなびっくりでしたが、すぐに慣れて二本目の吊り橋はすいすい渡り、一番印象に残った体験でした。



吊り橋を渡るとうっそうとしたブナ林が広がり、所々で講師の先生から、対岸の峰筋にある針葉樹とブナ等木々の住み分けや、珍しい木や草花を教えてくださいながら、ムササビの巣

穴を発見。残念ながらムササビ一家は出かけて留守でしたが、珍しい発見に興味津々。



お昼は、スタッフが焼いたイワナの塩焼きをほおばりながら楽しい一日を過ごしました。

「地元になんすばらしい森があるとは知らなかった。家族でまた来たい」等の感想が寄せられ終了しました。

